



# 歯科診療室だより

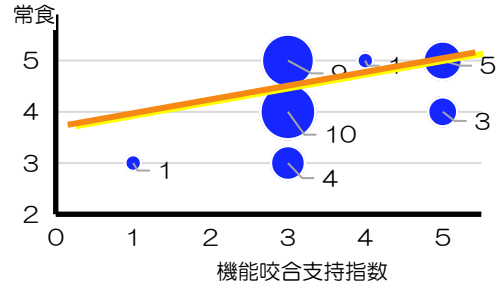
公立みつぎ総合病院

32号

令和5年3月8日

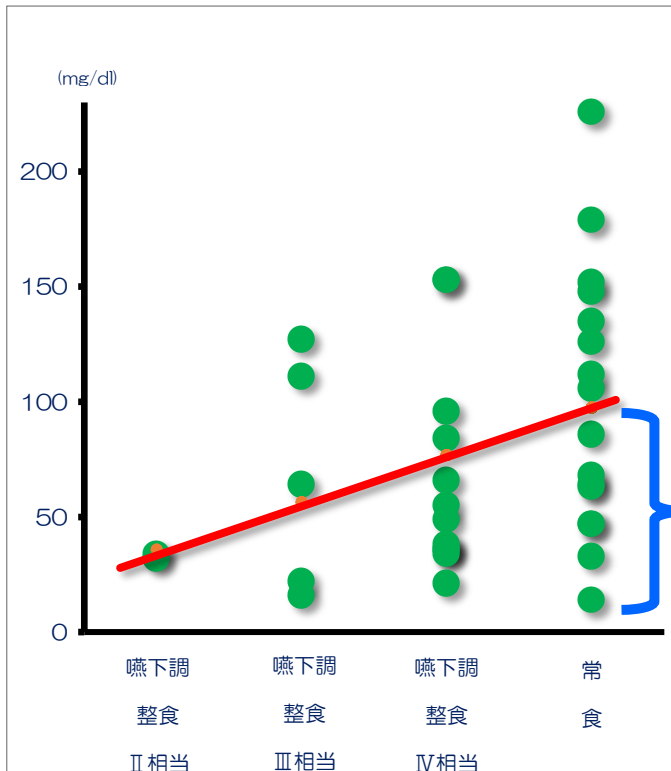
## 院内学会

2月4日土曜日院内学会がありました。歯科からは、“要介護高齢者の食事形態はどのような因子に関連しているか～介護老人保健施設における調査から～”という演題で高須真保歯科衛生士が発表しました。施設入所者の方に協力に感謝いたします。そこで食事形態は、下の記載にもあるように咬み合せが大事であることが判りました。抜けた歯をそのままにせず歯科に相談して、美味しく楽しく食事ができるようにしていつまでも“健口”で“健幸”に過ごせるようにしましょう。



## 口腔機能低下症～その14～

その4で説明しました咀嚼機能です。当院に入院した患者さんたちですが嚥下障害がなくとも咀嚼能力が不足していても常食を食べている患者さんが多くみられました。では、



どうしたら咀嚼能力は回復するのでしょうか？

**奥歯で噛める部位を作る事です。**

じゃあ、歯がなかったら諦めるのですか？

**歯がなくても入れ歯やブリッジといった補綴物で噛めるようにすると歯がない状態よりも咀嚼能力は向上します。**

また、飲み込みやすいからと言って柔らかいものばかり食べていると噛む回数が減って噛むための筋肉の力や筋肉量が低下しますので食事形態も重要となってきます。噛むために**1口30回**という事を聞いたことがあるか

もしれませんがしっかり噛むことは咀嚼だけでなく頭（脳の血流量増加）への刺激になります。咀嚼能力の維持・向上は、毎日の実践が大切になります。

文責 診療部長 占部秀徳